

**【授業の目的・内容・進め方・履修上の条件等】**

国際政治経済諸問題をより深く理解する能力を育てる。修士論文などの論文執筆者がゼミ内にいる場合は中間報告等学生の研究報告及びそれを基にした討論を行う。またそれ以外の日は、貧困問題、People's Process とオルタナティブな発展、グローバル経済の諸問題その他各自の関心に沿った共通の書籍及び論文を中心に選んで読んでいきたいと思っている。最終的には授業の参加者と相談の上決定する。学部開講の国際政治経済論 2 を受講済みであるか、併せて受講することが勧められる。

**【評価方法】**

ゼミでの割当の発表、毎回の参加の度合い、課題レポート等で総合的に評価する予定。

**【内容】**

※国際政治経済諸問題及び貧困等に関するテーマにおいて修士論文執筆者及び他に自分の研究を進めている人がいれば、その院生の報告を優先する。その合間を縫って、次の書籍を読みたいと考えている。

Joseph Stiglitz (2006) *Making Globalization Work*, W.W.Norton & Company, Inc.

(楡井浩一訳 (2006) 『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』 徳間書店)

※一回のクラスで 2 章進める予定で担当を決めるが質疑応答・討論に時間がかかる場合は順に次回先送りしていくつもりなので担当は後ろにずれていくことはある。この本が終わりに近づいた時点で、その後読む書籍・論文について検討する。

**<予定>**

10月1日：イントロダクション  
内容・役割分担決定。  
10月8日：修士論文中間報告  
または予定の紹介  
10月15日：書籍・論文  
10月22日：  
10月29日：  
11月5日：  
11月11日：  
11月19日：  
11月26日：  
12月10日：  
12月17日：  
1月7日：  
1月14日：  
1月21日  
\*1月15日が修士論文提出期限

第1章 不公平なルールが生み出す「勝者」と「敗者」  
第2章 発展の約束—ワシントン・コンセンサスの失敗から学ぶ  
第3章 アメリカを利する不公正な貿易システム  
第4章 知的財産権を強化するアメリカの利権集団  
第5章 天然資源の収奪者たち  
第6章 汚染大国アメリカと地球温暖化  
第7章 多国籍企業の貪欲—グローバルな独占を阻止する  
第8章 債務危機への道すじ—借りすぎか? 貸しすぎか?  
第9章 外貨準備システムの崩壊と「ドル大暴落」  
第10章 民主的なグローバリズムの道